

世界遺産「佐渡島の金山」って、 どんなところ？

18世紀半ばに描かれた道遊の割戸
(手掘りによる大規模な露頭掘り跡)

所蔵: 相川郷土博物館

現在の道遊の割戸

「佐渡島の金山」の2つのエリア

相川鶴子金銀山



金鉱石

相川鶴子金銀山では硬い金鉱石に含まれる「目に見えない金」を得るため、様々な技術と生産の仕組みが発展しました。

西三川砂金山



砂金

佐渡で最古とされる砂金山です。「目に見える金」である砂金を効率的に得る「大流し」という独特な採掘方法が行われました。

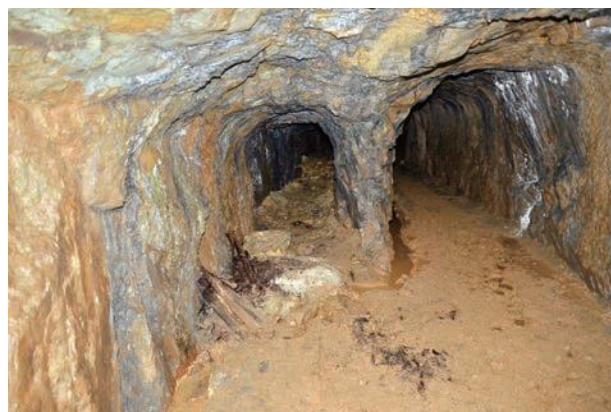


「佐渡島の金山」の世界遺産としての価値

「佐渡島の金山」は、16世紀末から19世紀半ば世界の他の地域において採鉱などの機械化が進んだ時代に、高度な手工業による採鉱と製錬技術を250年以上にわたり継続した、アジアにおける他に類を見ない貴重な文化遺産です。江戸時代(17～19世紀半ば)に徳川幕府は手工業を効率化するための管理体制と労働体制を構築し、17世紀には世界有数の金鉱山として高品質の金を大量に生産しました。これらは鉱山地域・集落地域の遺跡によって証明されます。



採掘跡に囲まれた集落(西三川砂金山)



良好に残る採掘技術の痕跡(相川鶴子金銀山)

—— 「佐渡島の金山」に関する詳しい情報はここから ——



徳川幕府の財政を支えた佐渡の金

～空前の発展を遂げた鉱山町～

佐渡で産出された金を用いて小判の製造が行われました。これは国内の鉱山では唯一のことです。小判は江戸へと運ばれ、徳川幕府の財政を支え続けました。

徳川幕府は「佐渡島の金山」を重視し、金生産を効率的かつ長期にわたって継続させるため、資金の投資と労働環境の整備を行いました。

とりわけ鉱山経営の中心地となった相川の町は元々小さな漁村でしたが、金の発見とともに計画的な地割や街路を持つ大規模な町が整備されました。そして、金生産に必要な労働者や人材が全国各地から集まったことで、人口最大5万人ともいわれる当時の国内有数の都市へと発展を遂げました。



オランダに運ばれた「佐渡小判」

オランダ王国貨幣コレクション (アムステルダム)

佐渡で作られた小判は江戸に運ばれ、主に幕府の財政資金として用いられました。17世紀、オランダ東インド会社を通じて大量の小判が持ち出され、一部は遠く欧州まで運ばれたものもあります。

「佐渡島の金山」の現地見学は 「きらりうむ佐渡」(佐渡金銀山ガイドンス施設)から出かけよう!

「佐渡島の金山」の玄関口として、資産の紹介と現地訪問に関する情報発信を行っている施設です。

館内の展示室では大型の映像、模型、グラフィック等で資産の価値や魅力をわかりやすく解説します。また、観光案内所も併設しており、レンタサイクルの貸出し、ガイドツアーやアプリを活用した現地探訪のための情報を提供しています。



きらりうむ佐渡外観



展示室内

〒952-1562 佐渡市相川三町目浜町18番地1
Tel. 0259-74-2215 Fax. 0259-74-2223
開館時間：8時30分～17時(展示室最終受付16時30分)
休館日：年末年始(12月29日～1月3日)
観覧料：大人300円、小中学生150円／
団体(15人以上)大人250円、小中学生100円

〈交通アクセス〉

■新潟港から両津港(佐渡汽船)

カーフェリー 2時間30分
ジェットfoil 67分

■直江津港から小木港

カーフェリー 2時間40分

■自家用車・レンタカーご利用の場合

両津港から 約50分
小木港から 約75分

車でお越しの方は「きらりうむ佐渡」の無料駐車場をご利用下さい。

